

# 政治学概論 II

## (9) 少子高齢化と経済格差

# 21世紀の少子高齢化社会

- 主要先進国（経済的に豊かな国）共通課題⇒世界的な課題へ増加を続けた世界人口も、20世紀後半からは人口減へ？

その背景は？

- 家族の変容＝伝統的な共同体（コミュニティ）の衰退、福祉の充実
- 男女関係の変化（男女平等）⇒女性の社会進出＝非婚化、晩婚化
- 政治課題としての少子高齢化 政策で「結婚・出産を増やす」は可能か？  
⇒子育てしやすい社会システムをめざす政策

# 日本の少子高齢化の歴史

■敗戦直後のベビーラッシュ「団塊の世代」⇒団塊ジュニア

高度経済成長＝夫婦＋子ども2人が標準系の「核家族」

1967年＝人口1億人を超える

石油危機後の1975年頃までは「人口爆発」の方に關心

■1990年 1.57ショック＝合計特殊出生率の低下

⇒行政・専門家の間で「少子化対策」が問題に

■2000年～出生率1.5を下回ることが恒常的に

政府も対策に力＝さほど効果は表れず、2005年高齢化率20%超

■2008年＝1億2808万人、この年をピークに人口減少

■2050年には1億人を割る予想、高齢化率は？

# 少子高齢化と社会保障

- 年金の問題（賦課方式＝世代間の仕送り）  
年金受給開始年齢の引き上げ（60歳⇒65歳）
- 労働力不足＝高齢化によって、労働人口・生産年齢人口が減少  
70歳になっても引退できない社会？

■国内市場の縮小（子育て世代の減少）地方の過疎化  
単身者の多い社会への政策的な対応の必要  
子育て支援（保育所の整備）は、少子化対策に効果があったか？  
※政府の政策誘導での結婚・出産増は一定の限界？

# 格差社会と政治の課題

- 新自由主義の浸透 ⇒ 「格差社会」との批判
- 生まれた家庭の経済力によって学歴の格差が拡大
- 「正規雇用」と「非正規雇用」との大きな収入の格差
- 正社員同士の「パワーカップル」と非正規「結婚できない若者」
- 単身の非正規雇用⇒高齢者⇒無年金者⇒生活保護 今後は増える？
- 年金・医療の社会保障見直し「セーフティーネット」の安心社会を  
(しかし財源は？)

# 格差社会と「無知のヴェール」

- 福祉国家路線⇒新自由主義路線⇒自由民主主義体制の揺らぎ  
「格差社会」批判 ベーシック・インカム（BI）構想  
⇒（政府による最低生活保障）への関心の高まり  
（財源は？ 既存の福祉政策との整合性は？）

なぜ、格差を縮小する必要があるのか？

ジョン・ロールズ（アメリカ、政治哲学者） 「無知のヴェール」  
人間だけが持つ「想像力」の高度な理論化

# 考えてみよう

- 仮に出生率が回復するとしたら、どんな条件が必要か？
- 少子化が止まらないとしたら、人口を維持するために移民政策を採用すべきか？
- 人口減少を受け入れて幸福に暮らす政策はないか？